

第六次総合計画後期基本計画 重点プラン（案）の説明

1. 初めに

- 総合計画は、分野別に施策目標・内容を掲げていますが、その中でも、基本計画の期間内で重点的に取り組む必要がある施策を「重点プラン」として設定しています。
- 第六次総合計画では、平成28年度から令和7年度までの10年間維持する3つの「基本理念（活力、快適、安心）」や3つの「基本方針（拠点・交流、自然・移動、地域・共助）」などが、「基本構想」として設定されており、後期基本計画においてもこの基本構想を維持することになります。
- 前期基本計画では、3つの基本理念ごとに重点プランを策定しており、後期基本計画でも同様に3つの基本理念ごとに重点プランを策定します。

2. 重点プランに加える新たな視点

(1) SDGs

- ・SDGsについて、総合計画とともに推進していきます。
- ・当町における一つひとつの事業が、SDGsの目標・理念に結びつくものと考えられます。
- ・SDGsの17の目標のうち、施策がどの目標に結びつくのかを表すため、施策ごとに目標のアイコンを表示することで、SDGsとの関係性を示します。
- ・後期基本計画「序論」の部分で、SDGsの概要等を記載します。

(2) 総合戦略

- ・人口減少や少子高齢化などの人口課題の解決、地域の活性化などを目的に、平成27年度から令和2年度までの6年間で取り組んでいる総合戦略については、第六次総合計画後期基本計画より、総合計画に一本化することとしました。
- ・第六次総合計画（前期基本計画）の策定に当たっては、既に総合戦略と整合を図る形で策定しており、総合戦略に掲げる施策を前期基本計画の重点プランに多く位置付けて策定しました。
- ・それらの経緯も踏まえ、後期基本計画においては、重点プランを総合戦略と位置付けて策定します。
- ・重点プランと総合戦略の関係性を見える化するために、当町では「重点プランの施策・KPI」と「総合戦略の4つの基本目標」との関連を表示します。
- ・後期基本計画「序論」の部分で、総合戦略の概要や総合計画との関係について記載します。

3. 重点プランに関する基本的な考え方

- 重点プランの「構成」は、前期基本計画をベースにし、大幅な変更はしません。
- 10年間の第六次総合計画であり、前期5年間と後期5年間は、同じ構想に基づき取り組むものであるため、継続することでの効果も期待し、後期の重点プランは、前期の重点プランをベースにしながらか検討しています。
- 重点プランは、「活力」「快適」「安心」の基本理念ごとに分けますが、それぞれの理念はお互いに関係し合っており、線引きはできないため、「期待される効果」の部分で、例えば活力の重点プランであれば、快適との相乗効果及び波及効果、安心との相乗効果及び波及効果を記載し、基本理念（重点プラン）ごとの関連性を表現します。なお、期待される効果は、できるだけシンプルにすることで、分かりやすさの向上を図ります。
- 「期待される効果」や「数値目標」を達成するために、どのような施策に取り組んでいくのかを表すため、「関連する主な施策」の部分に、分野別計画の施策番号・タイトルを記載します。
- 施策の展開により、重点プランの目標が達成できたのかを客観的な指標に基づき評価するため、数値目標を設定します。数値目標については、「期待される効果」とリンクするように設定します。加えて、各数値目標（個別目標値）を達成することにより、さらに達成を目指す上位の数値目標（基本目標値）を設定することで、段階的な効果検証が可能になり、重点プランの実効性を高めます。
- 町民や企業などを対象とした各種アンケート、町民ワークショップ（以下、「町民WS」という）などの結果を踏まえて、重点プランの選定を行っています。
- 総合戦略は、人口課題（人口減少の抑制、東京への過度な人口集中の改善、少子高齢化への対応など）の解決を目的としており、重点プランに総合戦略の要素を含めるため、当町の人口課題の解決に結び付く目標値や施策を重点プランに位置付けるように意識しています。（令和2年度に改訂する「人口ビジョン」と整合を図ります）

4. 重点プラン（案）の説明

(1) 活力

【目標の主な変更点（前期基本計画との比較）】

- ・産官学民の多様な主体が連携することでの効果を強調
- ・「交流人口」の増加から「関係人口」の増加にシフト
- ・交流拠点の「形成」から「活用」に移行

【目標値の解説】

基本目標値（実現目標・効果に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
関係人口	<ul style="list-style-type: none">●「活力」の実現目標、期待される効果の達成に直結する指標として設定。●様々な主体が活躍し、関係人口創出に繋がる取組の活発化による活力の創出を目指す。●国の第2期総合戦略において、核となる施策であり、全国的に次期計画の重要テーマに掲げられている。
転入者数	<ul style="list-style-type: none">●関係人口や交流人口に該当する方を増やし、そこから移住に繋がる方の増加を目指す。●活力ある中井町を実現することで、中井町の認知度やイメージが向上し、転入者増加に効果がある。

個別目標値（基本目標値に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
新規就農者数	<ul style="list-style-type: none">●前期でも設定していた指標。当町においては、農業が重要な産業である一方、耕作放棄地の増加など問題も抱えている。新規就農者数が増加することで、農業を発展させながら、町の課題解決にも繋がると考えられる。●前期では、順調に新規就農者数が増えており、後期間でもさらなる増加が期待できる。●町外からの新規就農者が増えれば、転入者数の増加にも結びつく。

<p>交流人口</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●交流人口と関係人口を明確に線引きすることは難しく、交流人口の増加に寄与する取組が、関係人口の増加に結び付くこともある。 ●前期基本計画でも掲げていた指標であり、里都まち交流拠点などでの交流機会創出により、町の賑わい創出に繋がったため、重要な指標として引き続き掲げるもの。
<p>ブランド品の売上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前期において、リーディングプロジェクトとして取り組んできたブランドプロジェクトの成果として、数々のブランド品が誕生した。前期では、ブランド品目数を目標値にしていたが、品目数は既に達成しており、次のステップ（誕生したブランド品の流通）として掲げるもの。
<p>産官学民の新たな連携事業数</p>	<p>産との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町内に多くの企業が集積していることは、当町の強みであり、町内企業と連携した事業展開を積極的に行っていくもの。 ●包括連携協定を締結している企業など、既に連携事業を行っている企業との新たな事業創出にも取り組む。 ●町民WSの中で、町内企業のことが分からないという意見が出ており、企業と町民の連携についても視野を広げる。 <p>学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生・若者を取り込んだまちづくりで活性化している自治体が多くなっている。町内に高校・大学はないものの、大学のキャンパスが近隣にあるなど、学生と連携した事業を展開できる環境はあると言えるため、積極的な展開を図る。 ●外部有識者及び町民で構成される「なかい戦略みらい会議」において、もっと学生を上手く取り入れるべき（大学との包括連携協定もよい）とのアドバイスをいただいている。 ●若者の中井町の認知度、愛着心の向上を図ることで、将来的に中井町に移住するまたは住み続けることに繋がっていくと考えられ、人口課題の改善に繋がる。 <p>民との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記の取組に町民も関わる仕組みにすることで、住民と多様な主体との交流が生まれ、町が活性化する。相互の理解度も増していく。
<p>事業所の新設数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●東名高速道路秦野中井インターチェンジ周辺の土地開発により、企業の参入が見込まれる。既存の企業の事業拡大の可能性もある。 ●町内企業の拡大は、様々な面で町の活性化に繋がる。

<p>まちづくりパートナー 制度活用件数</p>	<p>●制度の活用が進むことで、地域を支える人材の発掘が進み、町の活動の活性化に繋がる。制度の活用件数が伸びないなどの課題があり、制度の有効活用に向けた取組を展開していく。</p>
<p>町民の推奨意欲</p>	<p>●前期では、中井町を推奨している町民60%を掲げていた。目標値を達成できておらず、リーディングプロジェクトとして、引き続き掲げる。</p> <p>●小中学生アンケートより、次代を担う子どもたちの町に対する愛着心が低下を課題と捉え、改善を図る。</p> <p>●町民の推奨意欲を上げ、愛着心を醸成することで、町民にプロモーターとなってもらう。</p>

(2) 快適

【目標の主な変更点（前期基本計画との比較）】

- ・ 移動手段の多様化や健康づくりについて記載
- ・ 若い世代を中心とした定住促進から、誰もが元気にいきいきと暮らせる地域づくりにシフト

【目標値の解説】

基本目標値（実現目標・効果に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
平均寿命	<ul style="list-style-type: none"> ● 住環境の充実に加え、高齢者が生きがいを持って暮らせることで、長生きできる町を目指す。 ● 当町の平均寿命は、全国的に見ても高水準であり、長生きできる町として、見える化を図る。
出生数	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てに関する不安解消を図り、子育てに対して希望が持てる町を実現することで、出生数の増加を図る。 ● 近年の出生数の実績を見ると、年によってバラつきがあるものの、40人前後で推移しており、減少傾向ではない。これまでの取組の成果と考えられ、引き続き子育て等の施策に取り組むことで、数値の向上が期待できる。

個別目標値（基本目標値に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
里山をいかした取組数	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民アンケート、町民WSの結果、中井町の魅力として意見が多かったのは、自然環境の豊かさであった。里山の良さを町内外の方に感じてもらうために、里山をいかした取組を発展させていく。 ● 現在、民間の取組の中でも、町歩きや自然観察などの取組が行われており、そのような活動を増やしていく。
一人1日当たりのごみの排出量	<ul style="list-style-type: none"> ● 町の強みある自然環境の保全に繋がる目標として設定。食品ロスなどの社会問題にも対応。 ● 足柄上地区で連携し、ごみ処理の広域化から、ごみの減量化に取り組むこととしている。 ● 段ボールコンポストの利用など、個人でもできる新たな取組が出てきており、事業者も含めた町全体で、ごみの減量化に取り組んでいく。

子育て支援センター利用数	<ul style="list-style-type: none"> ●当町の子育て支援センターは、園庭も広く、のびのびと活動できることから、評判が良くて利用者も多い。 ●子育て支援センターの長所をアピールし、さらなる施設の活用促進を図る。町外の利用者が増え、中井町・町民との関係が強まれば、中井町への転入増加も考えられる。
ネウボラ利用件数	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに設置したネウボラについては、総合戦略で掲げている目標利用者数を上回っており、順調に成果が出ていると考えられる。中井町のきめ細かい子育て支援をアピールするために、掲げるもの。 ●子育てに関する精神的な負担（不安）の解消に寄与する取組。
小学生給食費自己負担額	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年度より、中学生の給食無償化を実現した。小学生の給食費についても、自己負担額の軽減を図り、最終的には無償化を目指す。 ●当町の人口減少や少子高齢化の解決に加え、持続可能なまちづくりを進めていくうえで、次代を担う子どもたちの増加・育成が必要であり、そのために子育てに関する大きな不安である経済的負担の軽減を図る。
総合型地域スポーツクラブ数	<ul style="list-style-type: none"> ●リーディングプロジェクトとして取り組んできたスポーツプロジェクトに関連する取組として掲げるもの。 ●クラブが設立されることで、誰でも気軽にスポーツを楽しめる機会が増え、活動できる場・人との繋がりや創出にも結び付く。 ●スポーツプロジェクトのこれまでの取組を通じて、総合型地域スポーツクラブの前身組織として「里都まちぷらっとスポーツ」が誕生し、定期的にイベントを開催しており、総合型地域スポーツクラブとして活動できるまで成長することを目指す。
生活交通の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ●町民アンケート、就業者アンケート、町民WS等で、当町の課題として最も取り上げられる交通に関して、既存のサービスだけで満足度の向上が難しいことから、さらなる交通手段の導入に向けた検討を行い、交通に関する満足度向上を図る。 ●近年、自動走行などの最先端技術を導入した交通システムの開発が進んでおり、社会の動向を的確に捉えた先駆的な交通システムの導入可能性を検討する必要がある。

(3) 安心

【目標の主な変更点（前期基本計画との比較）】

- ・多様な人材の活躍を目指す
- ・多様な地域活動の充実を進める

【目標値の解説】

基本目標値（実現目標・効果に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
新たな地域活動の実施数	●地域の課題解決や発展のためには、地域活動の活発化や地域住民の繋がり創出による地域コミュニティの強化が必要であることから、民間の自主的な地域活動の増加を目指す。地域住民の繋がりが強化されることで、安心して暮らせる地域づくりが進む。
転出数	●地域での助け合いが促進され、誰でも活躍できるとともに、安心して暮らせることで、住み続けたいまちづくりを目指す。

個別目標値（基本目標値に結び付く指標）	
指標	設定する目的等
未病センター利用者数	●未病に関する事業は、神奈川県全体で推進している事業であり、未病センター「なかい健康づくりステーション」は、当町の未病に関する取組を表す事業。 ●未病を改善する取組を進めることで、健康で長生きできるまちの形成ができる。 ●町民WSにおいて、気軽に運動ができる機会が必要であり、室内の運動施設やジムの必要性について意見が出た。未病センターを発展させることで、それらの希望に応えることに繋がると考えられる。
サロン活動数	●保健福祉センターを中心としたサロン活動の充実は図られているが、地域でのサロン活動の促進には課題があるため、担い手の発掘などに取り組み、サロン活動の活性化を図っていく。 ●地域での自主的なサロン活動が増えていくことで、居場所づくり、生きがいつくりにつながり、健康長寿やコミュニティ強化にも結び付く。

空き家を活用した活動数	<p>●空き家問題は、全国的に深刻なものとなっており、当町においても空き家が増えていることから、空き家の適切な管理や有効活用を促すために、空き家バンク制度を立ち上げるなど、空き家対策に取り組んできたが、空き家の問題は広がっている。</p> <p>●空き家を活用した地域の活動拠点創出など、優良事例も出ており、空き家を活用した民間の動きを後押ししていくことで、優良事例の増加から、空き家の有効活用の促進を図る。</p>
防災講座実施数	<p>●出前講座事業で、防災に関する知識の習得促進等を図ってきたが、開催頻度を増やしていくことで、さらに防災意識の向上を図る。</p> <p>●総合防災訓練や防災のつどいなど、様々な事業を行っているが、多くの方に防災への知識習得や強い意識を持ってもらうために、防災について学ぶ機会を増やしていくことが重要。</p>
安心・安全メール登録件数	<p>●防災、防犯においては、早く情報を入手することが大事であり、それに応じた早めの対応が求められる。</p> <p>●安心・安全メールの登録者数を増やすことで、できるだけ多くの方が迅速に情報を入手できる環境を整えておくことが効果的である。</p>
新たな外国語対応の取組数	<p>●年々、外国人住民数は増えており、外国人と共生するまちづくりの必要性が高まっている。「なかい戦略みらい会議」においても、外国人住民の多さから、外国人を意識したまちづくりの必要性について意見が出ている。</p> <p>●外国人住民も、まちづくりの重要な主体として再認識し、外国人でも安心して暮らせる環境づくりを進める。</p>